

# 里地 基盤づくり

## 多様な生物のいる水田

水田は、生物にとって重要な湿地です。人間の暮らしに一番身近な水辺である水田を、生態系豊かなオアシスとして復元すれば、多様な生き物と共生した、持続的で付加価値の高い農業へ転換することができます。

事例 宮城県田尻町<sup>たじりちょう</sup>

### 休耕田に水を張る

休耕田を放置すると藪や森林へと遷移します。田に常時水を張ることで、いつでも復田可能な状態になり、浅いため池の役割を果たすため、水鳥や両生類、水生昆虫などの生物の拠点になります。

### 冬期湛水水田

冬の水田に水を張ると小動物から水鳥まで、湿地性の生物の越冬を支え、同時に、微生物の繁殖により水田の生態系が豊かになります。この働きで、農業にも以下の好影響があります。

- 1 水鳥の雑草種子採食による抑草効果
- 2 水鳥の糞による施肥効果
- 3 湛水による雑草の抑草効果
- 4 稲かぶや稲わらの分解物による施肥効果

### 生物がもたらす付加価値

田尻町では、農薬を抑え水鳥が飛来する水田でとれた米に、安全・安心という付加価値を付け、その米で地酒を作り販売しています。

### 水田の一角を池にする

水田の一部を深く掘って池状にしておくと、田から水を落とすときでも水が残る湿地状の場所を確保することができ、湿地性の生物の棲息場所になります。



水田の一部が深い池になっている



水を張った田んぼに渡り鳥が集まる



# 湖沼の生態系の復元

治水利水目的の護岸工事には、水域と陸域の境界をコンクリートで直線化したものがあります。その場合でも、地域に自生する植物を活かした護岸に、簡易な再整備をすることにより、生態系の復元は可能です。

事例 <sup>かすみがうら</sup> 茨城県霞ヶ浦周辺

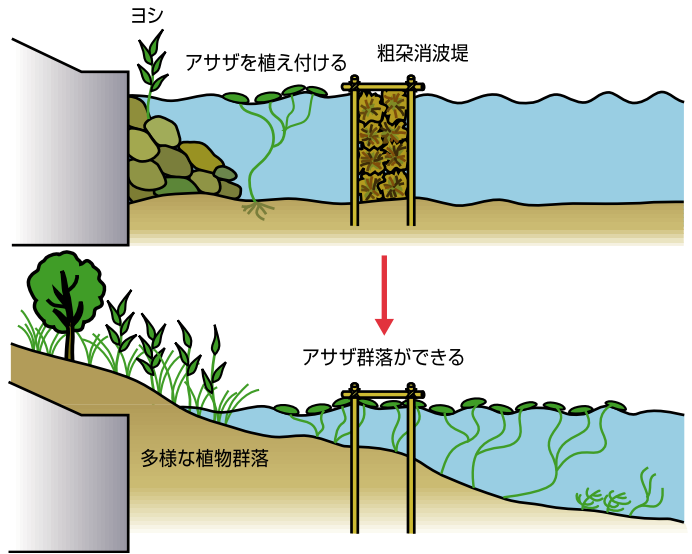
## 伝統技術にならう「粗朶消波堤」

伝統技術の一つである「粗朶消波堤」は、広葉樹の枝葉を用いた護岸技術ですが、動植物の生息場所も作り出します。水質と生態系が悪化した霞ヶ浦では、水辺の植生回復のカギとなる水草アサザの定着を助けるために、これを活用しました。

## 流域の里地整備と産業創出に発展

NPO法人アサザ基金では、粗朶消波堤の材料を得るため、流域の里地の整備を行う有限会社を結成しました。水辺整備と里地・森林整備がつながって地域循環型の産業が生まれ、流域全体の里地づくりが進んでいます。

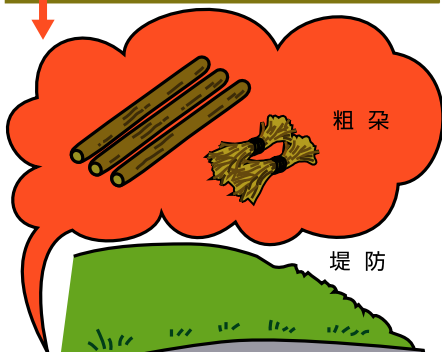
### アサザプロジェクト 植生復元のすすめ方



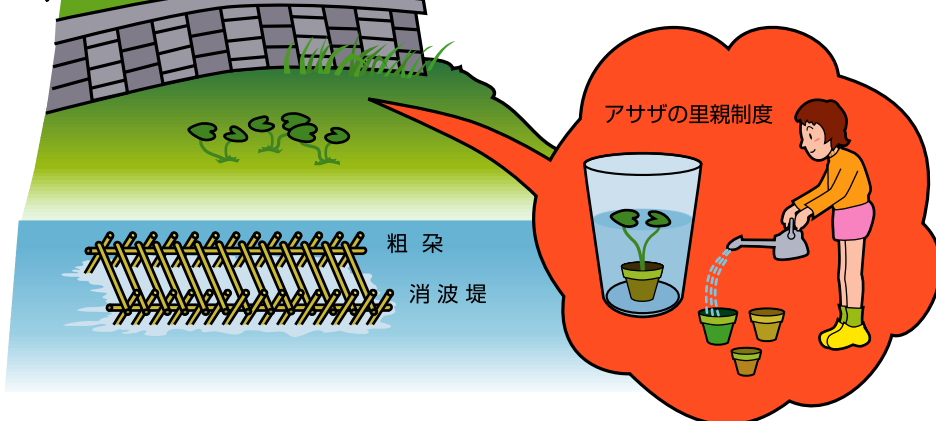
アサザ群落



森林保全活動で生じた間伐材や粗朶



堤防



アサザの里親制度

## 市民協働の保全事業

アサザ基金では、流域の市民団体、漁協、森林組合、企業、行政、学校などが参加した広域ネットワークによって事業を行っています。環境再生のためのハード事業が、地域産業の振興や環境教育と一体となった、誰でもいつでも参加できる市民協働の保全事業になっています。この協力体制により循環型社会を構築し、100年後には里地を生息環境とするトキの住める環境を目指しています。



育てたアサザを植える